

教団新報

定 価 1 部 140 円 (本 体 133 円 千 共 200 円)
予 約 購 読 料 1 年 分 千 共 5,000 円
紙 代 の み 3,500 円
振 替 00140-9-145275
本 紙 を 購 読 希 望 の 方 は 、 前 金 を
そ へ て 、 お 近 く の キ リ ス ト 教 書 店
へ お 申 し 込 み 下 さ い 。
教 会 の 購 読 料 は 負 担 金 に 含 み ま す 。

発 行 所 日 本 基 督 教 団
169-0051 東 京 都 新 宿 区 西 早 稲 田 2-3-18
日 本 キ リ ス ト 教 会 館 内 電 話 03(3202)0546
FAX 03(3207)3918
発 行 人 竹 前 昇
編 集 主 筆 竹 澤 知 代 志
印 刷 所 株 式 会 社 き か ん し



研修棟の奥に 95 年新設のホーム棟

にじのいえを訪れた三月
初旬の土曜日夜、子ども聖
書会から集立つ女子高生の
送別会が開かれていた。
中高生十一人に加え、入
居者、職員ら二十三人が出
席した聖書会は、礼拝から
始まり、辻哲子牧師は「光
の中を歩こう」と題する説
教で「希望をもって喜び、
苦難を耐え忍び、たゆまず
祈りなさい」と諭し、「祈れ
なくなったり、祈る言葉を
忘れたら、ただ『インマヌ

エル・アーメン』とだけ祈
りなさい」と優しく語りか
けた。
千葉市に就職するMさん
の送別会は、手造りのケー
キを頬張りながら、多くの
つめて来た。神様に見守ら

全国教会婦人の熱い思いと祈りで

千葉県館山市、南房総に
ある「にじのいえ」は、全
国教会婦人会連合が運営す
る婦人献身者ホームで、全

国教会婦人の祈りと献金と
労苦が結実して、七三年献
堂。その後、買い増して三
七四〇平方メートルの広々
とした土地に研修棟、ホー
ム棟、八四年、創設時から
の願ひだった礼拝堂を献
堂。九五年には、手狭にな

った建物を取り壊して新た
に鉄筋三階建ての新ホーム
棟を完成させた。
創設時に尽力した婦人会
員が見た房総の海にかかる
虹の忘れ難い印象が「わた
しは雲の中にわたしの虹を
置く。これはわたしと大地

の間に立てた契約のしるし
となる(創世記九・一二)の
御言葉と結び付けられ、に
じのいえの名を得た。この
名には、全国教会婦人の熱
い思いと祈りが凝縮されて
いる。

八一年、近くの児童養護
施設「ひかりの学園」の
子どもたちを対象に子ども
聖書会が発足し、以来、毎
週欠かさず、園生全員が土
曜の午後、にじのいえにや
つて来る。現在は幼稚園か
ら小学生までの一七人と中
高生の一人が二回に分か
れ、聖書を学んでいる。
この聖書会は、子供たち

だけでなく、入居者にとつ
ても、大きな励ましと喜び
になって来た。ここから受
洗者も出たし、にじのいえ
の礼拝に出ていた人たちの
間から、近くに教会が欲し
いとの願ひが高まって、九
七年の南房伝道所(高倉謙
次・高倉田鶴子牧師)開設

だけでなく、入居者にとつ
ても、大きな励ましと喜び
になって来た。ここから受
洗者も出たし、にじのいえ
の礼拝に出ていた人たちの
間から、近くに教会が欲し
いとの願ひが高まって、九
七年の南房伝道所(高倉謙
次・高倉田鶴子牧師)開設

だけでなく、入居者にとつ
ても、大きな励ましと喜び
になって来た。ここから受
洗者も出たし、にじのいえ
の礼拝に出ていた人たちの
間から、近くに教会が欲し
いとの願ひが高まって、九
七年の南房伝道所(高倉謙
次・高倉田鶴子牧師)開設

神と地との契約のしるし にじのいえ



子ども聖書会での辻哲子牧師

均年齢は八二歳になる。九
人中七人が八〇代である。
〇一年三月、静岡草深教会
を隠退した辻哲子牧師は、
翌四月から現地担当運営委
員として、月九日間、にじの
いえに滞在し、第一、第二
主日礼拝と子ども聖書会を
受け持ち、第三は高倉牧師、
第四は入居者の飛田悦子牧
師が礼拝を担当している。
全国の老人ホーム共通の
ことだが、社会の高齢化と
共に入居者の平均年齢も上
がって来た。にじのいえの
入居資格は教団の婦人教
職、逝去牧師夫人で、六〇
歳以上八五歳までと定めて
いるが、現在の平均年齢八
二歳が示すように、最近で
は「八〇歳を過ぎてから入
居を考える」傾向が顕著に
なって来た。角谷多美子連
営委員長(安藤記念教会)
も「八五歳までという入居
資格は弾力的に考えるよう
にしている」と話している。

お知らせ
『教団新報』を四
五七七・七八合併号と
し、四五七九号は五月
二二日発行とします。
総幹事 竹前 昇

高齢化がもたらす新たな章

高齢化は当然のことなが
ら、にじのいえのありよう
にも影響を及ぼす。発足当
時は「ホームを拠点に宣教
に出掛けていた」というが、
最近では医者通いをする人
が増えて来た。管理人に求
められる大きな仕事は医院
への車での送迎となった。

高齡化は当然のことなが
ら、にじのいえのありよう
にも影響を及ぼす。発足当
時は「ホームを拠点に宣教
に出掛けていた」というが、
最近では医者通いをする人
が増えて来た。管理人に求
められる大きな仕事は医院
への車での送迎となった。

高齡化は当然のことなが
ら、にじのいえのありよう
にも影響を及ぼす。発足当
時は「ホームを拠点に宣教
に出掛けていた」というが、
最近では医者通いをする人
が増えて来た。管理人に求
められる大きな仕事は医院
への車での送迎となった。

高齡化は当然のことなが
ら、にじのいえのありよう
にも影響を及ぼす。発足当
時は「ホームを拠点に宣教
に出掛けていた」というが、
最近では医者通いをする人
が増えて来た。管理人に求
められる大きな仕事は医院
への車での送迎となった。

高齡化は当然のことなが
ら、にじのいえのありよう
にも影響を及ぼす。発足当
時は「ホームを拠点に宣教
に出掛けていた」というが、
最近では医者通いをする人
が増えて来た。管理人に求
められる大きな仕事は医院
への車での送迎となった。

高齡化は当然のことなが
ら、にじのいえのありよう
にも影響を及ぼす。発足当
時は「ホームを拠点に宣教
に出掛けていた」というが、
最近では医者通いをする人
が増えて来た。管理人に求
められる大きな仕事は医院
への車での送迎となった。

高齡化は当然のことなが
ら、にじのいえのありよう
にも影響を及ぼす。発足当
時は「ホームを拠点に宣教
に出掛けていた」というが、
最近では医者通いをする人
が増えて来た。管理人に求
められる大きな仕事は医院
への車での送迎となった。

高齡化は当然のことなが
ら、にじのいえのありよう
にも影響を及ぼす。発足当
時は「ホームを拠点に宣教
に出掛けていた」というが、
最近では医者通いをする人
が増えて来た。管理人に求
められる大きな仕事は医院
への車での送迎となった。

高齡化は当然のことなが
ら、にじのいえのありよう
にも影響を及ぼす。発足当
時は「ホームを拠点に宣教
に出掛けていた」というが、
最近では医者通いをする人
が増えて来た。管理人に求
められる大きな仕事は医院
への車での送迎となった。

高齡化は当然のことなが
ら、にじのいえのありよう
にも影響を及ぼす。発足当
時は「ホームを拠点に宣教
に出掛けていた」というが、
最近では医者通いをする人
が増えて来た。管理人に求
められる大きな仕事は医院
への車での送迎となった。

高齡化は当然のことなが
ら、にじのいえのありよう
にも影響を及ぼす。発足当
時は「ホームを拠点に宣教
に出掛けていた」というが、
最近では医者通いをする人
が増えて来た。管理人に求
められる大きな仕事は医院
への車での送迎となった。

高齡化は当然のことなが
ら、にじのいえのありよう
にも影響を及ぼす。発足当
時は「ホームを拠点に宣教
に出掛けていた」というが、
最近では医者通いをする人
が増えて来た。管理人に求
められる大きな仕事は医院
への車での送迎となった。

高齡化は当然のことなが
ら、にじのいえのありよう
にも影響を及ぼす。発足当
時は「ホームを拠点に宣教
に出掛けていた」というが、
最近では医者通いをする人
が増えて来た。管理人に求
められる大きな仕事は医院
への車での送迎となった。



食事風景

ドイツにおける神学部と教会

❖ バーデン領邦教会の場合(下) ❖

神学研究と教会が必要

神学の目的と教会



ミヒャエル・ヴェルガー教授

神学との関係について、前回(四五七四号)に引き続きドイツ・バーデン領邦教会(ハイデルベルク)の例を取材した。

神学と牧師の学び

それについて、ハイデルベルク地区の地区長でもあるパウアー牧師(聖霊教会)は、教会指導(教会政治)に当たるのは、教



シュテファン・パウアー牧師

「教会本部からの大学へのおろそかにしてはなりません。諮問を受け入れ、活用する能力が牧師にあるのが大前提です。しかし、現実にはそのような教育環境が十分整

い」という傾向があつて両者の関係に緊張をもたらしているならそれは問題です。ハイデルベルク大学では昨年、牧師の勉強会として、二日間の研修を大学

で行い、その後四〇五人とに牧師による研究グループをつくり、ときおり神学教授が手助けする形で与えられたテーマを深めてもら

き詰まりから『神の言葉の神学』にとり着きました。現在の神学教授ではメラー教授などのように牧会経験を持つ教授は圧倒的に少数です。

しかし、「神学部での学び」と「牧師になるための学び」の関係理解は一樣ではないようである。さらに

「神学部の中における分野横断的な研究はハイデルベルク大学では盛んになされています。こういった研究に従事している教授として相当数を数え上げることが出来るのがハイデルベルクのような伝統です。ドイツの神学は、四半世紀前には

分野横断的・学問横断的に

さてここで、少し角度を変えて、学際的な神学研究がどの程度なされているかについて聞いてみた。

一つの領域にこだわっていた時期もありますが、そうだった時期でも、たとえばブルトマンがハイデガーと



ヘルムート・シュヴィア教授

を受領しています。またハイデルベルクでは、実践神学の教授は領邦教会主催の牧師養成セミナー(牧師補が年に一度1ヶ月受講する)の講師にもなるため、他の分野とは違い招聘人事を行うときには教会に通知するだけです。事実上多数が按手

も牧師であることによって学校の宗教教育の経験が得られるなどのメリットもあります。事実上多数が按手

関連づけながら神学を展開していました。その伝統はさらにバルト(福音主義神学入門)やシュライアーマッハー(神学諸科解題)などにさかのぼれると言えます。将来的に、さらにこれら学問横断的になされた神学が教会指導と摩擦や軋轢無く、さらに展開するとういと思つていま



ゲルト・タイセン教授

学教授ばかりでなく牧師が自分の好奇心を神学や牧会に対していかに向けるかが普遍的な課題になるだろうという感想を持つた。(上田 彰)

の神学は、四半世紀前には

前回の記事に出てくる「教会立神学校」について、かつて教会立神学校で教鞭を執っていたクレトケ教授に聞いた。「私は長い間『東ベルリン語学学校寄宿舎』の講師だったことになって『教会立神学校』についています。東

ドイツでは国立大学神学部は出版も含めて活動停止となり、表たつて神学校・神学部という看板を掲げることが許されなかったからです。そういう

状態でしたが、内部では博士号を出し教授資格論文審査も西側と変わりなく行ってきました。

「壁の崩壊と共に旧東側にも学問の自由が回復し、『告白教会』の伝統を

吸む四つの教会立神学校は一九九〇年にベルリン大学に吸収されました。現在も国内には三つの教会立神学校があり、神学教育がなされている。

「教会立神学校」について



ヴォルフ・クレトケ教授

昨春秋にベルリン・フンボルト大学を定年退官。都市部ベルリンにおけるキリスト者人口の減少を憂い、また「全信徒祭司性」の原則に基づいた伝道に関する論文を幾つも書いている。現在はベルリンにて牧師の継続教育に協力しているほか近々説教集を出版する予定。

つていないのではないかと思います。私は第三試験(按手礼を受けるための試験)の委員ですが、受験者である牧師補に『文獻の引き写しはだめだ』と言いつつにいます。暗記は得意でもきちんとそれを説明出来ない受験者がかつていたのです。教授であるためにまず牧師でなければならぬという主張を裏付ける例として、同牧師の博士号取得テーマであるバルトを引き合いに出してこう語る。「彼は説教者としての行



クリスティアン・メラー教授

「実践神学の教授の場合には牧師としての経験が必須になりますが、他の分野の場合で

●ミヒャエル・ヴェルカー教授
モルトマン教授の下でバルトを学ぶ。アメリカ、中国、韓国で広く知られ、改革派の伝統に立ちつつ福音主義教会の神学を構築する神学者で学際的な関心も高い。ホームページの紹介によれば論文数は250に達する。現在、教会の牧師試験委員。

●シュテファン・パウアー牧師
メラー教授の下で説教学を学び、牧師としては11年目。

●ヘルムート・シュヴィア教授
博士論文は新約聖書学、教授資格論文は実践神学で提出し、大学では両方を講じる。大学教会(ペトロ教会)にも携わっている。

●クリスティアン・メラー教授
説教学と牧会学を講じる。最近の関心は教会建設と礼拝学。邦訳あり。

●ゲルト・タイセン教授
ドイツで最も著名な新約学者の一人。学際的な関心(教育方法)を扱った『聖書への関心付け』といった本も執筆。邦訳書多数。

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

「ともに宣教を担う教師」を目指して

教師委員会

第34総会期第二回教師委 三〇分から三〇日午前十一
員会が三月二十九日午後一時 時三〇分まで教団会議室に



新任教師オリエンテーションの内容を協議

おいで開催された。

今委員会の主な協議事項は、新任教師オリエンテーション開催に關しての準備であった。すでに開催期日を六月二十七日、二十九日の二泊三日とし、会場は天城山荘、主題は「教団の教師として宣教をともに担う」と

を取り入れるなどの工夫をこらしてみた。昨年の研修会では、参加者が新任教師となつて三ヶ月というこの時期、それぞれ持ち場での緊張感から研修会期間中に体調を崩してしまう者もあったことへの配慮でもあ

る。また、今回は、教団の全体像を、山北宣久教団議長から「教団の昨日、今日、明日」と題した講演を受け、小林眞副議長から、教憲九条を踏まえて「教師と教師制度」について発題を受け

る。更に、竹前昇総幹事から、教団の各委員会の説明を受け、教団の動きの全体像を参加者に理解をうながす。また現在教団が差別と人権場周囲の自然に触れる案内

いくつかの具体的な取り組みを受け止めるというプログラムを組んでいる。そして、参加者が元気にそれぞれの持ち場に帰っていくことを願って三日目には「牧会講話」と題して小島誠志牧師の講演を聞く計画である。

その他、今委員会で取り上げた議題は、九州教区常置委員会からの提訴に關する件「セクシアルハラスメント防止対策の取り組みに關する件」神学校問安に關する件「無任所教師問題に關する件」であったが、それぞれこれからも継続して協議していくこととなる。

(宮本義弘報)

続けられる宣教師派遣

— JNAC 解散後も —

森田喜基(よしき)宣教師派遣式が、三月三日に教団会議室で大宮博世宣教師により執り行われた。

森田宣教師は、米国カリフォルニア州バークレイ近郊のエル・セリートにある米国合同教会シカモア組合教会の日語部に、二〇〇一年に赴任した大門光歩宣教師の後任として、赴任する。森田宣教師は同志社大学大学院神学研究科卒業後、紅葉坂教会担任教師として奉仕した。

シカモア組合教会は、一九〇四年に数名の日本人留学生により創設され、昨年一〇〇周年を迎えた。また、十年前から、日本語と英語によるキリスト教主義幼稚園の動きが与えられ、豊かに祝されて、運営されている。同教会は一世紀にわたる、アメリカにある日系人教会として、また、アメリカで生き、教会に集う日本人・日系人としてアメリカの教会と共に歩むことを模索してきた。

派遣式では、大宮委員長がシカモア(いちしき)に赴任して、宣教を担うこととなる。森田宣教師は主の召しに答えて、カリフォルニア州に赴き、かの地で伝道、牧会に精一杯励みたいと語った。派遣式後にもたれた茶話会では、森田宣教師の神奈川教区での活動、教団宣教研究所でのアルバイトの時のエピソードなどが多数語られた。

さらに、後援会の発足が準備されている報告がなされた。後援会は、異国で異なる文化の中で奉仕する宣教師にとり財政面だけでなく、精神的に大きな支えとなる。本年、日・北米宣教師協力会(JNAC)が解散し、北米教会との新しい関係構築が教団に求められている。

都 鶏が鳴いた

後藤正敏

イースターを迎えた。今年はいつになく早いイースターだった。京都は寒い。受難週の早天礼拝の寒さは身にしてみた。陽が上がる前の冷えきった礼拝堂に聖書を聞き、参加者の熱心な祈りに支えられた。今年のレントは、ペトロの転びが自らのことのように思われた。カヤパの屋敷の中庭でお前はイエスの仲間ではないかと問い詰められ、ペトロは「そんな人は知らない」と三度も否定した。そして、鶏が鳴いた。あの場面である。昨年十月の教団総会において、敗戦から六〇年、戦争体験の風化が取りざたされている。日本基督教団は一体どこへいくのだらう。私たち京都教区は、教団の風見鶏であるのかも知れない。京都教区の総会報告書を開くと、表紙の見開きには「京都教区宣教方針・方策」が正しなものなのか。やむを得ないものなのか。教区内でも議論の二次大戦下における日本基督教団の戦争責任についての告白が印刷されている。私たちは、あの戦争にこだわっている。

教区 コラム

区宣教方針・方策」が正しなものなのか。やむを得ないものなのか。教区内でも議論の二次大戦下における日本基督教団の戦争責任についての告白が印刷されている。私たちは、あの戦争にこだわっている。

(京都教区総会副議長)



森田喜基宣教師派遣式

消息

中富貴一氏(隠退牧師)



二月十日、逝去。八二歳。福岡県に生まれる。一九五〇年、東京聖書神学院卒業後、広島平和教会に就任。その後、八丈島中之郷教会、津久見教会、平戸教会、和田山地の塩伝道所を経て、八十七年から九十九年まで鷹取

教会牧師を務め、隠退した。遺族は長男の聖召さん。奥田さか子氏(隠退牧師)



二月二日、逝去。九三歳。京都府に生まれる。一九四四年、神戸基督教伝道館活水学院卒業後、山手教会に赴任。その後、六十九年から九三年まで二五年間、深谷西島教会担任を務め、隠退した。遺族は長男の和信さん。

ANNOUNCEMENT (通知)

March 31, 2005

To whom it may concern,

We are writing to inform you of the official dissolution of the Japan-North American Commission on Cooperative Mission.

JNAC has served both the Japanese and North American churches well for 33 years. However, with the recent decrease in the number of missionaries serving in Japan, the rising cost of maintaining staff, the limited funds available and the desire to do cooperative mission in a new, more flexible way, the member organizations came to the difficult decision to dissolve JNAC. The final decision was made at a special general meeting of all JNAC members, held at the PCUSA Center in Louisville, Kentucky on January 24 and 25, 2005. The decision was unanimous.

We request that you inform all persons in your financial, legal or other departments, to whom this news is relevant.

Although JNAC is dissolved, we trust that your church/organization will remain committed to working together with the other former members of JNAC for the good of mission in Japan, North America and throughout Asia.

Yours sincerely,

Satoru Kuze, CoC Moderator
Nobuhisa Yamakita, Kyodan Moderator
Jungkang Choi, KCCJ Moderator

関係者各位

日・北米宣教師協力会(JNAC)が正式に解散したことをお知らせいたします。

JNAC は、33 年間、日本と北米の両教会のためにその役割を担ってまいりました。しかしながら、近年、日本への派遣宣教師の減少、それを支えるスタッフの経費の増加、必要資金の不足、そして新しい、より柔軟な宣教師協力の道を求めようとの切望等により、JNAC 加盟教会はこの組織を解散することをやむなく決断いたしました。最終決議は、2005 年 1 月 24 日～25 日に、北米ケンタッキー州ルイヴィルの PCUSA (米国長老教会) センターで開催されました全 JNAC 加盟教会による特別総会でなされ、満場一致をもって可決いたしました。

この JNAC の正式解散につきまして、貴団体内部の関係部署へもお知らせ下さいませよう、お願い申し上げます。

JNAC が解散いたしましたとしても、貴教会 / 貴団体が引き続き、これまでの JNAC 加盟教会、そしてかつての加盟教会と共に、日本、北米そしてアジア地域における宣教のために引き続き協力なされることを祈って止みません。

2005 年 3 月 31 日

CoC 議長 久世 了
教団議長 山北 宣久
KCCJ 議長 崔 正 剛

教務教師からの声

大切なひとり

生 鳶 陽子

(福岡女学院中高聖書科常勤講師)

「ト一枚一枚をチェックしながら思うことは、生徒たちが教会で大切にされ、受け入れられ、霊的成長を遂げていることです。私が働く福岡女学院は、長崎にある活水女学院の創立に貢献された宣教師ミス・ギールによって、一八八五年、福岡美以美教会（現在の福岡中部教会）より出発しました。多くのミッションスクールの女子学校がそうであったように、創立当時の歴史を振り返ると、大変な苦勞の中にあっても、多くの祈りに支えられてきた歴史があったようです。そして、女学院は



サマースクールにて

り、生徒たちにとって人生の価値観を築く上で、大きな影響を受ける場です。私たちが、何を一番大切に、どのような考えのもと生徒と接していくのか、このような時代にあっても、一度当たり前のことですが、確認していかなければならないと感じています。世の中が教育基本

「牧師であり教師でもある」と言われる教務教師の仕事は、朝八時から始まります。週一五クラスの授業、所属学年の仕事、生徒たちは、中学一年生から大学受験を控えている高校三年生までの成長期真っ只中にいる生徒たち。毎日終わることのない生活指導、そして放課後のクラブ指導（時には日曜の遠征も）、毎日生徒と共に時間が過ぎていきます。

今年、福岡の地で二二〇周年を迎えようとしています。女学院中学校では入学時に「大切なひとり」という言葉で迎えられます。この言葉は一九六八年、一九八九年まで中高の宗教主事を務められた久保田純一先生が作られた教科書（新教出版社）大切な一人の題名でした。それから毎年、一年生の学年目標になっていきます。一年間、生徒たちはこの学年目標のもと、一人ひとりの存在を大切に生き方を学びます。しかし、この社会において私たち教師一人ひとりが「大切なひとり」を毎日心に留めながら、生徒たちを指導していくことは、私自身とても大切なことと思いがち、それに心えられず恥ずかしい、日々悩まながらの毎日です。

しかし、私たちミッションスクールの「ミッション」とは、「私たち一人ひとは神に愛された大切なひとりである」ということを子どもたちに伝えていくことが一番大切な使命（ミッション）であると私は考えます。学校は毎日の生活の場であ

り、生徒たちにとって人生の価値観を築く上で、大きな影響を受ける場です。私たちが、何を一番大切に、どのような考えのもと生徒と接していくのか、このような時代にあっても、一度当たり前のことですが、確認していかなければならないと感じています。世の中が教育基本

まど

★日本基督教団年鑑二〇〇五年版の追録及び教勢一覽差し替え版を発行いたしました。教団年鑑二〇〇五年版において、統計表などにミスが多かったことについてお詫び申し上げます。そこで当年鑑の正誤表・常議員会及び教務機関欄を内容とする追録、及び教勢一覽差し替え版を、当年鑑をご購入された方々に差し上げます。年鑑を購入された書店、もしくは教団事務局総務部年鑑係（☎03-3202-1054）に直接お申し込みください。

★2005年5・3憲法集会一〇九条を守る大きなつねり。この言葉は新しく私たちの心に届きます。イエスは永遠の命を得たという金持ちの青年に「行ってあなたも同じようにしなさい」と言われました。ミッションスクールに勤める者として、また聖書を生徒と共に学ぶ教務教師として、青年と同じようにたじろがずにいられたら幸せでしょう。

★「子ども・教会・社会」研究会／講師 石川憲彦さん／テーマ 『診察室から見たわたしたちの社会』／時 5月27日（金）18時半～20時半／所 AVAC内／参加費 1千円、学生五百円／主催 問合せ NCC教育部／TEL・FAX 03-3203-10731

★「子ととも・教会・社会」研究会／講師 石川憲彦さん／テーマ 『診察室から見たわたしたちの社会』／時 5月27日（金）18時半～20時半／所 AVAC内／参加費 1千円、学生五百円／主催 問合せ NCC教育部／TEL・FAX 03-3203-10731

★「子ととも・教会・社会」研究会／講師 石川憲彦さん／テーマ 『診察室から見たわたしたちの社会』／時 5月27日（金）18時半～20時半／所 AVAC内／参加費 1千円、学生五百円／主催 問合せ NCC教育部／TEL・FAX 03-3203-10731

出版局 ニュース

http://www.jp.ncc.or.jp

★新刊から『日本の農村社会とキリスト教』星野正興（明治以来の近・現代日本で、プロテスタント農村伝道が果たした役割とは。日本教会史・伝道史を農村教会・伝道の視点から問い直す。四六判・二九〇頁・二九四〇円）『やさしい礼拝用オルガン曲集Ⅰ』コラールによる奏楽曲Ⅰ（岡井 晃山端純四郎編）やさしく、しかも格調高い、手鍵盤だけで弾ける奏楽曲集。第1巻には『讃美歌21』所収の「礼拝」から「受難・レント」までのコラールによる奏楽曲他、三九曲を収録。A5判・七八頁・二五二〇円）訂正 四五七六号三頁「宣教委員会報告」欄「鈴木恭子氏」を「鈴木優子氏」にお詫びして、訂正いたします。



福島光夫さん

信仰と「本物」にふれて描き続ける



1927 年生まれ。藤沢北教会員。画文集『旅にありて』。題名は詩編 119 編 19 節から。

日本が太平洋戦争に突入する一九四一年の春、一四歳の福島さんは家業の理髪を継ぐため信州飯田から東京へ修行に出た。「三笠館」の若主人、後藤三男さんが迎えに来てくれた。車中で師匠は終始、一冊の本を読んでいる。主人がトイレに立ったときに、福島少年は座席に置かれた本を開けてみた。聖書との初めての出会いだった。

三等館に入店してすぐに渡されたのは聖書と讃美歌。今度の日曜日の朝から日曜学校へ行きなさい。師匠から言われて行った東京・芝教会。これが教会生活の始まりだった。

しかし、その師匠も先輩達も間もなく応召。昭和一九年戦時体制により、理髪のような平和的職業に携わる男子の就業も禁止。業を離れざるを得なくなり、主人の長兄の書生となった。夜間中学から明治学院専門学校を卒業、茅ヶ崎市にある平和学園に七年間奉職した。

終戦後、軍隊から帰った師匠は理容学校の創設に関わり、「理容と一般教育の経験を持つ福島を」と迎えられ、学校法人中央理容専門学校作りに参画。後藤さんは、日本の教育制度のうちに置かれていた職業学校を専門学校として国に認知させるべく、理容学校の責任を福島さんに任せ、七五年、ついに専修学校を学校教育法の中に位置づけ、今日の専門学校制度の基礎を造った。

「理容師は容姿を整える技術だけでなく、その裏にある美しさに対する感性を養わなければいけない」。師匠は「本物」にふれさせるために従業員を美術館や音楽会に連れて行ってくれた。本物にふれる感動が、やがて福島さんに絵筆をとらせた。定年後は絵画三昧。隔年でヨーロッパスケッチひとりに旅に出かけ、個展も二六回。福島さんの目がとらえた本物の風景が、多くの教会員宅の玄関やリビングを飾っている。教会では、この道を伝道へと、「絵を楽しむ会」を指導。求道として洗礼へと導かれる人が与えられた。

卒業式のシーズンも終え、新しい伝道者が各地に遣わされていった。送り返した教会、迎える教会の恵みとともに卒業生の健闘を主にあって祈りつづけた。

神学校とともに

今年から一つの教団立神学校、五つの認可神学校に教団三役、幹事らが教団代表として卒業式参列を申し出て、みなお迎えいただいた。「なにを今頃」と言われそうだがそれすらも出来ていなかった。ということとは、ようやくそこまで教団も本来あるべき姿に戻りつつあると言える。

私は農村伝道神学校と東京神学校

大学卒業式に出席することができた。各々の特徴があつて、歴史的経緯と共に味わい深さを感じさせられたものである。特に東神大機動隊導入、35年目

教団にとって神学校の存在は生命線であるが、関係を生き延びるためには多くのことを実践に移さねばならない。こうした機会ある毎の訪問は今後も継続し、良き積み重ねをなすようすがとしたいと痛感させられた次第である。

農村伝道神学校の経済的苦勞の

（教団総会議長 山北宣久）